

# 赤十字NEWS

May 2014 Vol.888  
<http://www.jrc.or.jp>

5



日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

「愛の力を信じている。」

## 赤十字運動月間スタート EXILE ATSUSHIさんも協力

毎年5月は「赤十字運動月間」。国内外で人道支援活動を行う日本赤十字社を支える「赤十字社員」への参加を広く呼びかけます。

今年の運動月間CMは、ダンス&ヴォーカルユニットEXILEのATSUSHIさんとタイアップ。世界の平和を願ってATSUSHIさんが書き下ろした新曲「Angel Heart」に乗せて、災害救援に取り組む日赤職員の姿が描かれています。ATSUSHIさん自身も出演するCMは、日本赤十字社公式YouTubeでご覧いただけます。

CMは日本赤十字社公式 YouTube (<https://www.youtube.com/user/JapaneseRedCrossPR>) で15秒バージョンと30秒バージョンを公開中

今月の出会い



三陸鉄道 社長  
望月 正彦さん

### 社員一丸となって全線開通

「鉄道は地域になくてはならない存在。鉄道がなくなつて栄えた町はありません」。東日本大震災から3年ぶりに全線開通を果たした三陸鉄道。あの日、津波によって駅舎や高架橋、線路など計317カ所が被害を受け、107.6キロ全線が不通に。

震災直後、線路上の雪に多くの足跡が残っていました。「線路が唯一の道となつた地域がたくさんあつたのです。その時、皆さんのためにできることを精一杯がんばろうと決めました」。震災から5日後、被害が軽微だった北リアス線の一部で運行を再開。被災地の足となり、無料で乗客を運びました。「降りる時に住民の皆さんのが必ず『ありがとう』と言ってくれました。それを聞いて社員

全員が『動かしてよかった』『地域のために役立った』と思い、一丸となって全線運行再開を目指すことができました」

沿線は復旧が遅れ、まだ周辺に民家がない駅も。「地域の足と観光、特に震災学習列車に力を入れます」。社員の奮闘と国内外からの支援でつながれたレールは復興への夢と希望を乗せていきます。

### PROFILE

昭和27年1月生まれ、62歳。岩手県花巻市出身。岩手県庁入庁後、盛岡地方振興局などを歴任。平成22年6月、三陸鉄道社長就任。三陸鉄道は県や沿線市町村が出資する全国初の第三セクター鉄道として昭和59年4月に開業。今年は開業30周年。「三鉄」の愛称で呼ばれ、昨年放送されたNHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のモデルになり、一躍有名に。

### CONTENTS

#### TOPICS

- 三陸鉄道全線運行再開 藤原紀香さんが住民とともに祝う
- 赤十字の源流さぐる「赤十字への道」
- 常任理事会開催報告

#### TOPICS

- 上智大学とボランティア共同宣言
- 昭憲皇太后基金 第93回支援事業決定 国際シンポジウムで評価
- 児童福祉週間

#### SPECIAL

- 赤十字運動月間 あなたも赤十字サポーターに!

#### AREA NEWS

- 東京・大分・徳島・長野・静岡  
秋田・岩手・茨城・兵庫・佐賀  
日赤看護など5大学院  
共同教育課程を開講  
Voice&プレゼント

#### WORLD

- ウガンダ  
保健ボランティアの活躍
- フィリピン  
日赤が復興支援計画策定
- IPCC総会  
気候変動の人道的影響



<http://www.jrc-akb48.jp/>



<http://www.jrc-undougekkan.jp>





赤十字を  
もっと  
知つて

5月は赤十字運動月間

# あなたも赤十字サポーターに!

日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という理念の下、災害時の救護活動やいのちを守る救急法の普及など、国内外でさまざまな人道支援活動を行っています。こうした活動を支えているのは、赤十字社員をはじめ、皆さまから寄せられる活動資金です。5月は赤十字運動月間。人間のいのちと健康、尊厳を守る活動のため、皆さまの赤十字社員への参加や寄付へのご協力を心よりお願いいたします。



活動資金にご協力ください。OPEN 赤十字運動月間特設サイト <http://www.jrc-undougekkan.jp>

## ご存じですか？日赤のこと

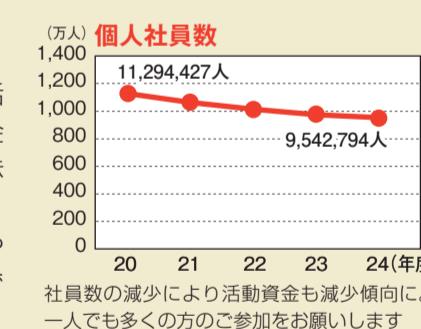
あなたの素朴な  
疑問に答えます

### きもん 日赤が国組織じゃないって本当？

本当に！ 税金で賄われている組織と思っている方も少なくありませんが、実は「日本赤十字社法」という法律に基づいて設置された民間の組織なのです。その活動に税金は使われておらず、赤十字の理念や活動に賛同いただいた皆さまから寄せられる活動資金によって支えられています。

### きもん 誰でも赤十字社員になれる？

その通りです！ 赤十字の理念と活動に賛同し、年額500円以上の資金協力を継続していただく方のことを赤十字社員と呼んでいます。日赤で働く人という意味ではありません。国籍や年齢、個人・法人を問わず、どなたでも赤十字社員になることができます。



### きもん 病院や献血は知っているけど、日赤って何をしている組織なの？

国内外での幅広い人道支援活動が日赤の任務です。全国47都道府県に支部があり、世界189の国と地域に広がる赤十字ネットワークの一員として、災害時の救護活動や救援物資の配布、紛争地での医療支援、途上国への保健衛生支援などを展開しています。また国内では、社会福祉施設の運営、救急法などの講習、赤十字ボランティアによる地域での活動なども行っています。

### きもん 日赤の活動って取つきにくい印象があるけど、私も参加できる？

もちろんです！ 皆さまの身近なところで活動しています。例えば、AED（自動体外式除細動器）の使い方やもしものときの応急救手当を学べる救急法などの講習は各都道府県支部で定期的に開かれています。各地域や大学などの赤十字奉仕団（ボランティア）には、全国で約220万の方が参加していて、いつでもメンバーを募集しています。

## ご協力を願いいたします

日赤では、赤十字社員となって活動を支援していただくほか、ご寄付も随時受け付けています。詳しくは、日赤ホームページ (<http://www.jrc.or.jp/contribute/index.html>) または、ナビダイヤル (0570-009595) でご案内しています。

### 赤十字社員になっていただくには



#### インターネットで\*

日赤ホームページからお申し込みください。クレジットカード決済での場でお手続きが完了。

<https://donate.jrc.or.jp/jrc/application/registerEmail>



### ご寄付いただくには



#### インターネットで\*

日赤ホームページ上からクレジットカードで簡単に手続きできます。



#### 銀行振込／郵便口座で

窓口に備えつけの振込用紙、振替用紙に必要事項を記入してお振り込みください。



#### コンビニで

ファミリーマートの情報端末「Famiポート」からタッチパネルで簡単に。



#### 口座振替で\*

日赤ホームページから「社員加入申込書」を印刷し、必要事項を記入して郵送ください。



#### 戸別訪問で

赤十字奉仕団や町内会の方々がお配りする申込用紙にお金を添えてお申し込みください。



#### お近くの窓口で

日赤の各都道府県支部、各市町村の赤十字窓口では、その場でお申し込みを受け付け中です。



#### ポイント募金などで

クレジットカードなどのポイントを利用できます。募金サイトでのクリック募金も受け付け中。

\*クレジットカード決済、口座振替の場合、振込手数料や事務手続き費用を日赤が負担させていただくため、1回当たりの金額は2000円以上をお願いしています。

## 災害への備えも大切な任務です

大雨や台風災害の増加に加え、次の巨大地震にいつ襲われても不思議ではない日本列島。誰もが「被災者」になる危険と隣り合わせに生活しています。そうした事態に備えて日赤では、医療救護活動にあたる救護班を組織し、迅速に行動できるよう訓練を重ねています。また、全国の支部で救援物資を備蓄。皆さまから寄せられた活動資金は救護班の派遣や救援物資の配備などにも活用されています。



## 災害や紛争での救護活動

国内外の大規模災害や紛争地での救護活動、将来に備えた救護員養成、救援物資備蓄などに



## 救急法などの講習

もしものときに役立つ救急法をはじめ、水の事故や子どもの事故防止のための講習会などを開催

## 活動資金は今日も 役立てられています



## 国際的な人道支援や開発援助

政府の援助が届かない分野で、開発途上国の災害復興支援や保健衛生指導をサポート



## 地域福祉・青少年活動

地域福祉を担う赤十字奉仕団のボランティア活動を支援するほか、青少年赤十字（JRC）を育成

\*血液事業、医療事業、社会福祉事業はそれぞれ独立した特別会計の下、運営されています。



### 1 EXILE ATSUSHIさんも登場—TVCM

災害救護活動をテーマに「愛の力を信じている。」という力強いメッセージが映し出される今年のTVCMや広報ポスター。CMにはテーマソングを歌うEXILEのATSUSHIさんも登場します。



CM映像は、日赤公式YouTubeで公開中

### 2 表参道を赤十字でデコレーション

東京・原宿の表参道では今年も5月5日から18日まで、通りを赤十字旗で彩るキャンペーンが展開されます。



3 もうすぐ誕生!?

日本赤十字社公式キャラクター

## AREA NEWS

## 木材で院内を癒し空間に 25mの廊下にヒノキの壁



(長野県)

木育全国生産協議会の行う助成事業の対象施設に選定された長野赤十字病院で、3月中旬、ヒノキ、スギ材を使用した室内環境木質化工事が行われました。



スギ床マットはおしゃがりが冷たくならないので、子どもたちも安心して遊べます

長野県産材の利用推進の一環として行われた今回の工事。北口玄関からのびる約25メートルの廊下には「ヒノキの木壁」が施され、ほんのりヒノキの香りが漂います。小児病棟では廊下の壁面全体に「木壁」を施したほか、プレイルーム（約30m<sup>2</sup>）の床を「スギ床マット」に貼り替え、木製ミニチュアハウスやおもちゃ箱付き本棚を設置しました。患者さんからは「木の香りがよい」「何とも言えない安心感がある」「カーペットよりも暖かさを感じる」など好評を博しています。

## 静岡で初のEPA看護師誕生 フィリピン研修生2人が合格



(静岡県)

日本とフィリピンの経済連携協定(EPA)で来日し、浜松赤十字病院で看護助手をしながら日本の看護師資格を目指していたモントヤ・クリスティーン・ジョイ・アルシアガさん(28)とアブリオール・ルビー・ピンク・モイセスさん(29)の2人が3月25日、看護師国家試験に合格しました。



先輩看護師と合格を喜ぶクリスティーンさん(右から2人目)とルビーさん(左)

EPAに基づく看護師試験の合格は静岡県内では初めてのこと。平成23年から同院で学びはじめた2人は、午前中に入院患者のベッドメーキングや食事の介助を行なながら、毎日8時間以上勉強。期限となる3年目に、合格率10.4%の難関を突破しました。共に「母国の家庭に仕送りを続けながら、日本の医療技術を学び、スキルアップしていきたい」と抱負を語っています。

## “想定外”を“想定内”に 災害への備えを学習



(秋田県)

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学の「平成25年度公開講座」が3月15日に秋田市内で開催され、石巻赤十字病院の金愛子副院長兼看護部長が「3.11を忘れない」と題して講演を行いました。



参加した高校生は「看護について改めて考えさせられた。自分も目指したい」と感想

市民や医療・福祉関係者、高校生など約130人が参加した今年の講座。金副院長は、宮城県沖地震を想定したさまざまな準備や大規模災害訓練が東日本大震災で役立ったことなどを講演。また、石巻赤十字病院での院外支援活動を経験した3人の教員が体験発表を行いました。受講者からは「いつ起るか分からぬ災害に備え、“想定外”を“想定内”にしていく準備が大切だと分かった」などの感想が寄せられました。

## 日赤岩手乳児院に新院舎 きめ細かな保育へ期待



(岩手県)

日赤岩手乳児院の新院舎が2月に完成。3月8日に落成祈念祝賀会が盛岡市内のホテルで開催されました。



外観はシンプルで清潔感のある白を基調に

新しくなった乳児院は、子どもたち4~6人のグループごとに担当職員がつく「小規模グループケア」に対応しているのが特徴です。よりきめ細かな関わりで、子どもたちの豊かな心を育む効果が期待されています。また建物の床を木目調のクッションにしたり、キッチンや洗濯スペースが見えるレイアウトで「暮らし」感を出したり、子どもたちが安全に安心して暮らせるような工夫が各所にされています。祝賀会では、地元紫波町の「紫波ひめ隊」による餅つきや、ユネスコ無形文化遺産でもある「早池峰神楽」の舞が披露されました。

## 安心な空の旅を守る「赤十字 FIRST AIDER」 客室乗務員が救急法資格を取得



(東京都)



赤十字救急法救急員の証を胸に大空へ飛び立ちます

今年6月から就航する「春秋航空日本」の客室乗務員19人が「赤十字 FIRST AIDER」バッジを着けて乗務を行います。

現在、春秋航空日本の客室乗務員は47人。このうち19人が成田赤十字病院(千葉県)と東京都支部で救急法の講習を受講し、赤十字救急法救急員の資格を取得。残りの乗務員も同資格の取得を目指しています。また、同社の他部門の社員からも受講希望の声が挙がっているといいます。

国内、海外の他の航空会社でも、救急法の教育を受けている乗務員は少なくありませんが、「赤十字 FIRST AIDER」のバッジを着用して客室乗務員が乗務するのは春秋航空日本が初めてです。バッジは機内での安全性を考慮し、裏面をピンではなくキャッチにした特別仕様。客室乗務員の皆さんには「機内で体調が悪くなるお客様は少なくありません。皆さまに安心して空の旅を楽しんでいただきたいとの思いから、赤十字救急法救急員の資格を取得しました。赤十字のバッジがお客様の不安を和らげてくれれば嬉しいです」と笑顔で話しています。

※バッジは東京都支部のオリジナル。一般的な救急法資格取得者への配布予定はありません。

## 高校生と学生が福祉体験 健康生活支援講習を受講



(大分県)

大分県支部は3月27、28日に「高校生・学生対象赤十字健康生活支援講習会」を開催しました。夏休みと春休みを利用して年2回行われている講習会で、今回は看護や介護、ボランティアに関心を持つ県下の高校生と専門学校生14人が参加しました。



参加者自ら高齢者役になり、介助する側、される側両方の立場を体験

受講者は、高齢者に起こりやすい事故の予防や事故が起きたときの手当、車椅子での移動方法などについて学習。レクリエーションの方法やリラクゼーション技術、癒しのハンドケアなどの実技を体験しました。リハビリテーションの専門学校に通う学生からは「実習に向けてよい勉強になった。この経験を生かしていきたい」との声が聞かれました。

## 自分たちが立ち上がろう！ 高校生が献血推進活動



(徳島県)

徳島県の青少年赤十字(JRC)高校生メンバー52人が、3月22日に徳島駅前で献血への協力を呼びかけました。メンバーは昨年秋、若年層の献血離れが深刻化していることなどを学習。「同世代の人に献血の大切さを知ってもらいたい」と今回の呼びかけを企画したものです。



この活動により前週より10人以上も献血協力者が増加しました

「輸血を必要としている人がいます。献血にご協力ください」とメンバーが呼びかけると、「献血場所はどこですか?」「久しぶりに行ってみようか!」と献血ルームに足を運ぶ子ども連れの夫婦や若い女性の姿も。「協力者が帰りに『献血してきたよ』と報告してくれて、とってもうれしかった」と参加メンバーは成果を確かめ合いました。

## 災害看護のグローバルリーダーを養成

# 日赤看護大など5大学院が共同教育課程を開講

災害看護学のグローバルリーダーを養成する日本初の大学院共同教育課程として「共同災害看護学専攻」(5年制博士課程)が4月5日に開講し、高知県立大学で開講式が行われました。



離れた場所に位置する5つの大学での共同課程となるため、講義はテレビ会議システムなどを活用して行われます

共同教育課程は、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学院が連携。歴史が浅く専門家も少ない災害看護学ですが、各大学による共同教育を行うことで教員の偏りなどをカバーし、学ぶ専門領域を広げていくのが特徴です。今年は各大学から計11人が履修。5年間の履修を通じて、災害時に発生するさまざまな課題に的確に対応できる、国際性を持った看護リーダーとなることを目指します。

開講式では日本赤十字看護大学の高田早苗学長が、赤十字による災害救護活動の課題として「他との連携」を指摘されていることなどを紹介した上で「この教育課程に私どもが加わることは、赤十字にとっても、赤十字看護大学にとっても重要な意味がある」とあいさつ。日本赤十字看護大学院1年の池田稔子さんが学生代表として「災害時に人々の健康、安全を守る役割を果たせる人材になります」と宣誓しました。

## Voice & プレゼント

### Voice 本紙に寄せられた読者の声をご紹介!

#### 参加してみたいノルディックウォーキング

—匿名希望（神奈川県厚木市）

健康で長生きできるようウォーキングイベントのボランティアに参加しはじめてから、運動に加えて栄養と休養の大切さを実感しています。ノルディックウォーキング（2月号）や栄養教室が近くで開催されたらぜひ参加したいと思いました。

#### 実生活に役立つ講習です

—ペンネーム 海ブドウさん（静岡県榛原郡吉田町）

奉仕団の活動を通じて年数回、救急法などを教えていただいている。身のまわりにあるタオルや毛布などを使う健康生活支援講習は実生活にも役立ちますし、介護生活にも心強い技術です。一人でも多くの人たちに知って欲しいと思います。

### プレゼント

三陸鉄道 全線運行再開記念カレンダー（2014年4月～2015年3月）を3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



- ①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
- ②郵便番号・ご住所
- ③電話番号
- ④年齢
- ⑤赤十字NEWS5月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
- ⑥赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送／〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS5月号プレゼント係  
FAX／03-3432-5507  
メール／koho@jrc.or.jp（件名「赤十字NEWS5月号プレゼント係」）

応募締切 ● 5月26日（月）必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

## チビッ子190人がお仕事体験 赤十字キッズタウン開催



茨城県

子どもたちに赤十字のさまざまな仕事を体験してもらうイベント「赤十字キッズタウン」が、3月9日に茨城県水戸市にあるイオンモール水戸内原で開催されました。



敬礼！出動命令を受けるチビッ子救護隊

茨城県では初開催の赤十字キッズタウン。延べ190人の子どもたちが、災害救護や病院、献血、保育士の4つの仕事を体験しました。災害救護では救護服に着替えた子どもたちが無線を使って本部と連絡。病院コーナーでは聴診器で患者さんの診察や、包帯を使った手当にも挑戦しました。保育士になった子どもは、人形を使ってのおむつ交換や、ほ乳瓶での授乳、沐浴などに大奮闘。子どもたちからは「包帯を巻くのは難しかったけど、心臓の音を聴くのが楽しかった。またやりたい」といった元気な感想が出されました。

## 復興応援写真展 桜メッセージツリーも満開に



岩手県

岩手県支部は、東日本大震災で被災した沿岸地の皆さんの笑顔と声を発信していくための写真展を3月7日から14日までイオン盛岡南で開催しました。



桜のツリーは5月24日からイオンスーパー・セントラル釜石店に飾られる予定です

被災者から寄せられた「支援への感謝は、忘れたことはありません。皆さまの愛に支えられ一日一日を大切に生きています」といったメッセージとともに、42点の写真を展示しました。来場者の中には「自分は何ができるのかと震災以来葛藤してきました。みんなの思いが一つひとつ形になって、復興が早く進むといいです」と涙ぐむ女性の姿もありました。

会場では、来場者が被災者への応援メッセージを書き込んだ桜の花の形のカードがツリーに飾り付けられ、満開の花びらを咲かせました。

## 解散した奉仕団が復活！ 防災などの活動に期待



兵庫県

兵庫県西部にある太子町で、3月3日に再結成された太子町赤十字奉仕団の結団式が開かれました。



奉仕団旗を手に気合いの入る上森委員長

同奉仕団は昨年3月、太子町婦人会の解散に伴い、一旦は解散。しかし、防災活動を展開していたボランティア団体を中心に再結成が話し合われ、団員47人で再スタートすることになりました。結団式で上森俊正委員長は「防災ボランティアとしての活動が今回の結成につながった。『和のまち太子』\*の奉仕団として、皆で協力し合い頑張りましょう」と決意表明。太子町の北川嘉明町長は「奉仕団の協力で、太子町が災害の少ない安全・安心の町になるよう、願っています」と新しい団への期待を述べました。

\*住民一人ひとりが連携してまちづくりを進めていく町の基本目標

## 国際理解・親善のつどい 文化の多様性など学習



佐賀県

青少年赤十字（JRC）の高校生メンバーが体験を通じて異文化などを学ぶ「国際理解・親善のつどい」が、3月9日に佐野常民記念館で開催されました。



協議会会長の鶴丸聖人さん（18）は「世界にはいろいろな人、考え方の違いがあることを学べました」

つどいは、JRCの実践目標の一つ「国際理解・親善」のために、佐賀県JRC高校メンバー協議会が企画・運営した国際交流イベントです。3回目となる今年は、JRC加盟高校から過去最高となる約70人が参加。エジプト、ベトナム、メキシコ出身の佐賀県在住外国人の3人を招き、一緒に食事をしたり、その国の文化や言葉をスライドで学びました。また、昨年フィリピン中部台風災害で救護活動を行った熊本県支部の赤十字職員が被災直後の現地の様子や赤十字の国際活動などを講演しました。

# WORLD NEWS



ウガンダ

## 5年目に入った母子保健事業 地域住民の意識を変える 保健ボランティアの活躍

「お母さんと赤ちゃんのいのちを守るために保健所で出産しよう」—赤十字の地域保健ボランティアによるこうした教育・広報活動がいま、ウガンダ北部で多くの妊婦や赤ちゃんのいのちを救っています。ボランティアを育成し、その活動を促進しているのは日本赤十字社が2010年から取り組むウガンダ母子保健事業です。1年余りにわたり現地駐在員を務めた平田こずえ看護師(和歌山医療センター)がこのほど帰国。事業内容と成果を報告しました。

豊かな緑と多くの湖を抱え、「アフリカの真珠」とも称されるウガンダ共和国。著しい経済発展も遂げつつあります。しかし産婆による自宅出産の習慣が残る地域も多く、妊産婦死亡率は日本の110倍。また貧富の格差も激しく、特に20年以上にわたる内



ママバックはこれまでに約1万3000人の妊婦に配布。左が平田看護師

に戦に苦しんできた北部地域では、妊産婦の死亡割合が10万人中610人(2010年)とウガンダ全体の倍近くに達するなど医療サービスの立ち遅れが目立っていました。

「医療施設が少ない上に、女性の立場が弱い事もあって、妊婦が保健所に行くことがなかなかできませんでした。多くの妊婦は自宅で出産せざるを得ず、出産時の死亡事故につながっていたのです」と平田さんは説明します。

こうした環境の改善を図るのが母子保健事業の目的です。北部アチャリ地域を対象に、各村を担当する保健ボランティア80人を育成。妊婦の家庭訪問や地域住民との対話集会を通じて、保健所での産前健診・出産を促します。また、産前健診を4回受けた妊婦さんに対しては、出産時に必要な衛生キットが入った「ママバッグ」をプレゼント。健診の動機付けにするとともに、安全な出産に役立てもらっています。

ボランティアによる地域対話集会は93回実施され、3200人近くが参加(2013年)。妊産婦家庭訪問は3280回行われています



### 半数を超えた保健所出産

「ボランティアのモチベーションが非常に高い。自分たちで地域を良くしていくこうという気持ちが伝わっています」。事業成功のカギを握る保健ボランティアについて平田さんはこう評価します。

ボランティアには月10日までの活動について1日あたり300円程度の手当が支給されます。しかし多くのボランティアは月10日を超えて活動。手当が出ない日でも、支給された自転車に乗って村々を回っています。

「妊婦さんたちからは『サポートに感謝します』『安心して出産できます』といった声が多く寄せられています。『妊婦さんに優しくしよう』という働きかけの結果、妻の健診に付き添う夫の姿も珍しくなくなりました」と平田さんは語ります。

事業開始前の2009年、北部地域で

は自宅出産が70%を占めていましたが、2011年には47.4%にまで減少。さらに支援地では92%の妊婦が医療施設で産前健診を受けるようになりました。

### 生活全体の底上げを

しかし、課題も残っています。日赤の支援は2015年までの予定ですが、それ以降、ボランティアの手当やママバック配布への財政支援がなくなった下で、母子保健の取り組みが継続できるのか。苦しい生活の中に埋没してしまうのではという不安です。

「農業や畜産の技術指導を行う他の赤十字社などの支援も行われていますが、人々の生活全体を改善するこうした支援を組み合わせていくことが、保健事業を地域に根づかせる上でも大切だと感じています」と平田さんは指摘しています。

フィリピン台風30号

## 日赤が約13億円規模の復興支援計画策定 住宅や公共施設再建を支援

昨年11月にフィリピン中部の各島を襲った台風30号は死者・行方不明者7806人、総被災者1,600万人に上る甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社は救援物資の提供や医療チームの派遣など緊急救援を行ってきましたが、このほど被災地の復興に向けたプログラムを策定しました。

国際赤十字は今年2月、総額200億円規模の復興支援計画を策定。日赤の取り組みは、この国際的な支援と連動して実施され

ます。台風で損壊した住宅・施設を再建するとともに、健康で災害に強い地域づくりと地域の長期的な発展に配慮した復興支援を行います。

具体的には、セブ島北部地域の500世帯を対象にした住居再建・復旧、公共施設の修復、生計支援など。また国際赤十字の復興支援事業にも協力していく予定です。

こうした活動には、皆さまから寄せられた約17億円の救援金が充てられます。

### 日赤による支援計画(約17億円の内訳)

支援項目	内容	支援金額
セブ島北部での総合復興支援事業	住宅・公共施設の再建、給水・衛生施設修復、生計支援、保健衛生教育など	4億5600万円
サマール島での復興支援事業	赤十字国際委員会(ICRC)が実施する住宅・生活再建支援、生活環境整備事業などへの協力	2億3000万円
レイテ島などの公共施設修復支援	公共サービスの復旧を図るため、病院、学校、庁舎などを再建・修復	2億円
被災者の生活再建支援	国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)による被災者への生活再建事業を支援	1億4200万円
フィリピン赤十字社の災害対応能力強化支援	今後の災害に備えたフィリピン赤十字社の災害対応能力強化	5100万円
フィリピン中部地震被災者支援	2013年10月のボホール島地震による被災者への住宅再建などIFRCの取り組みを支援	5700万円
その他の事業(策定中)		1億円
事業評価、報告書作成、人件費など		1億300万円
緊急救援(実施済)	災害発生直後の医療チーム派遣、救援物資支援など	3億7700万円

\*計画は平成26年度から30年度を予定。支援には日赤へ寄せられた救援金を活用。金額は100万円未満を切り捨て

IPCC総会

## 気候変動の人道的影響に 赤十字も懸念

「国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は3月、横浜市内で第38回総会を開催。温暖化による社会経済や生態系への影響と適応策についての報告書を発表しました。報告書は、洪水や干ばつ、沿岸部の浸食など広範且つ深刻な災害の増加を警告しているのが特徴です。

「温室効果ガスの排出量が現在のレベルで継続すれば取り返しのつかないことになる」と指摘するのは報告書の執筆に加わった赤十字・赤新月気候センターのマーテン・ヴァン・アルスト氏です。「気候変動の影響は台風など一過性の災害だけではない。雨期と乾期のサイクルの変化に伝統的な農耕では対応できず、途上国では洪水による感染症拡大も懸念される。気候変動で一番影響を受けるのは最も脆弱な立場の人たちだ」と警鐘を鳴らします。

温暖化に伴う災害への対策は、これまで赤十字による人道支援が行われてきた分野です。国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)が

2009年に策定した「2020年に向けての戦略」の中でも、気候変動への関心を高め、防災を含めた災害対応能力の強化、脆弱な地域での被害軽減などの対策を強化していくことがうたわれています。すでに、気候変動による健康被害防止へ向け、健康教育の普及などの取り組みが各地でスタートしています。今後、アジア大洋州地域をはじめ、アフリカや南米各地で「災害に強い地域づくり」などを目指す支援策にも取り組んでいく予定です。

\*気候変動にかかる理論を赤十字活動の実践につなげるごとにオランダ赤十字社内に設置されています。



横浜市内で開かれた総会では報告書の一文一文を確認。連日深夜まで議論が続きました